

## 特別講演 2

### 「慢性腎臓病と臓器連関 ―CKM 症候群と腸腎連関を中心に―」

金沢大学医薬保健研究域医学系

腎臓・リウマチ膠原病内科学教授

岩田 恭宜 先生

慢性腎臓病（CKD）は、本邦に約 2000 万人、成人の 5 人に一人存在すると推定されており（CKD 診療ガイド 2024）、新たな国民病と考えられている。

CKD の進展過程では、末期腎不全に加え、心血管疾患も高頻度で発症する。近年、進行性腎障害の進展には、腎臓が全身各臓器と連関し、病態を形成することが明らかとなっており、それを反映する新たな概念も提唱されている。

例えば、CKD と心血管疾患においては、これまで心腎連関として理解されていたが、米国心臓協会は、同じく心血管疾患のリスクである代謝性疾患も包括し、心腎代謝症候群という概念を発表した。また、近年の研究により、腎疾患の進展には、腸内環境が深く関与することが判明し、腸腎連関の重要性も認識されている。腎臓は全身臓器と連関し恒常性が制御され、その破綻が種々の病態に寄与すると考えられている。

本講演会においては、これら腎臓を取り巻く全身環境について議論させていただきたい。